

創立21周年 更なるステージへ！

夢を追い、空翔ける



令和7年7月14日（月）埼玉県立戸田翔陽高等学校 学校通信第5号

☆授業の様子☆

授業の様子・生活支援技術発展

生活支援技術発展の授業では、3年次生が視覚障害の方への介助方法について研究をしています。2年次までは先生が示してくれたスタンダードな介護技術を習得するインプットに力を入れてきました。

3年次になると先生からは実際に起こりうる具体的な状況を想定した問題が提示され、それに対し生徒たちは現在身に着けている技術や知識を使ってどのように介助するのか、自分で考えてやってみせる「アウトプット」を中心とした授業を行っています。授業の最後に先生が模範解答の介助方法を見せてくれますが、生徒たちは介助のポイントを確認してメモをとり、今後活かそうと頑張っています。



授業の様子・情報 I

情報 I の授業では、問題解決に必要な情報技術を学びます。ある会社の売上高の減少について、その原因を探るために Excel の関数やオートフィルを利用して解決手段を探るというワークです。

生徒は基本的な Excel の操作方法を学びながら、種別販売数や売上高比較表を作成していきます。こうした基本的な PC 技術を活用して問題解決していくスキルや周りとの協働により成果を上げていく取り組み方は、今後の社会でも益々求められていきます。また、商業の科目では簿記や情報処理の授業を通して資格取得指導をおこなっています。履歴書に残るライセンスを在学中に手にすることができます。



授業の様子・陶芸

陶芸の授業。本校には陶器を焼ける立派な窯があるため、生徒たちは陶芸室でお皿やマグカップなどを作ります。1学期は型を使って作成していきます。形ができれば素焼きをして、釉薬を塗って本焼きします。釉薬の塗り方を工夫してオリジナルのカップなどを作っていきます。型を使った陶器の作成ができるようになったら、2学期以降はいよいよ自分たちで好きなものを作っていきます。



こんなものを読んできた (22)

校長先生のコラムを紹介します。

「アルテミス」 アンディ・ウィアー (ハヤカワ SF 文庫) 校長 鈴木 健

この作品は、前に紹介した「ヘイルメアリー・プロジェクト」の作者アンディ・ウィアーが「ヘイルメアリー」より前に書いた長編です。アンディ・ウィアーは、作家としての活動期間がまだ 10 年くらいで、作品も多くありませんが、私は SF 史上に残る作家になるだろうと思っています。この「アルテミス」もすごく面白くて一気に読みました。

「アルテミス」の主人公は月面都市アルテミスに住む若いアラブ系の女性、ジャズ (ジャスミンの略) です。月に住んでいると言ってもエリートではなく、ジャズは貧しい移民として、地球からの密輸などの危ない仕事で生計を立てています。

ある日、ジャズは実業家のランドヴィクから依頼を受けます。ランドヴィクは月で酸素製造を独占している大企業サンチェス・アルミニウムから、酸素製造の利権を奪うため、ジャズを使って妨害工作を企んでいました。

ジャズは巧妙な作戦を立て、サンチェス・アルミニウムの鉱物採掘ロボットを壊していきませんが、最後の 1 台で失敗します。その報告にランドヴィクの家を訪ねると、ランドヴィクは殺されており、ジャズも警官や殺し屋から追われることに…。

「ヘイルメアリー」と同様、この作品にも物理法則を無視したような超科学技術などは登場しません。最近の SF はサイバー空間や多世界解釈などを扱った難解な作品が多くなっています。しかし、アンディ・ウィアーは真空や低重力、強烈な太陽光線などの現実的・科学的な知識を使いこなして、スリリングなストーリーを作り上げています。この辺が実に見事で、往年の巨匠アイザック・アシモフやアーサー・C・クラークの作品のようです。。

私がアンディ・ウィアーを好きな理由はもう一つあります。彼の作品には、いい意味での「アメリカらしさ」を感じるからです。

たとえばそれは、「アルテミス」の主人公ジャズが、アラブ系で女性という二重のマイノリティであるのに、持ち前の才能を発揮して自由に生きているところや、「ヘイルメアリー」の主人公グレースが、異星人ロッキーと彼の種族の生存のため、自分の生命を投げ出す決断をするところなどに表れています。

アメリカも歴史的にはずいぶん悪どいことをしてきました。その独善的な態度が他国から嫌われることもあります。

しかしなんだかんだ言っても、世界中の人々はこれまでアメリカを世界のリーダーとして認めてきました。それはアメリカの民主主義への信頼であり、アメリカの底には、寛容さや公正さ、博愛主義といった「アメリカらしさ」があると信じてきたからでしょう。アンディ・ウィアーの作品にみられるアメリカ的な価値観・態度が今後も、ずっと続いて行けばよいのですが…。

学校ホームページでは、校長先生の「こんなものを読んできた」や「ブチ史跡めぐり」などのコラムが掲載されています。ぜひご覧ください

学校 HP QRコード ⇒

